



1/16 (日) 市民が自ら健康情報を活用するために

総務省、厚生労働省、経済産業省の3省連携で、平成20年度から浦添市で行われてきた「健康情報活用基盤実証事業」のシンポジウムが、市てだこホール小ホールで開催されました。

この事業は、利用者が自身の健康情報を生涯にわたり保存・管理し、その情報を活用することで、健康増進を図ったり、医療機関が情報共有することにより治療に役立てたりするものです。全国に先駆けて浦添市のみで行われた試みであり、今年度が最終年度となります。

今回は登録した市民を対象とした実証事業でしたが、今後は国の事業として沖縄県全体での取組の拡大を検討しています。

また、津波信一氏が主宰する「劇団チームスポットジャンブル」によりこの事業をテーマとした劇が行われ、会場を盛り上げていました。



1/8 (土) 特定健診を受けて、ちゃ〜がんじゅう!

中高齢者の健康保持、増進を目的に特定健診の普及・啓発を図ろうと、「第11回がんじゅう劇場」が市てだこホール大ホールで開催されました。

イベントでは、高齢者でも無理をせずにできる体操「操体法」の紹介と実技指導が行われたほか、浦添総合病院健診センターの久田センター長による特定健診に関する健康講話が行われ、来場者は生活習慣病予防の重要性を再認識していました。

終盤では、恒例となった喜劇の女王、仲田幸子さん率いる「劇団でいご座」の公演があり、会場は終始笑いに包まれていました。



2/4 (金) やったぞ九州アベックV!

1月7日から9日までの期間、大分県で行われた「第31回九州小学生親善ハンドボール大会」で県勢アベック優勝を果たした神森小男子、浦城小女子のハンドボール部の生徒たちが、その報告のため市長を訪問しました。

神森小の平仲航キャプテンは「6年間取れなかった優勝旗を手にすることができたのでうれしい」と感想を述べ、また浦城小の仲西萌夏キャプテンは「たくさんの人に支えてもらいながら勝ち取った優勝です。感謝の気持ちを忘れません」と、話していました。



2/6 (日) 浦添から「のど自慢」生放送!

毎週日曜日に放送されている、おなじみの「NHKのど自慢」が浦添市市制施行40周年記念事業として、市てだこホール大ホールで行われました。

前日に行われた予選会では、211組が出場し、その中から勝ち抜いた20組が本選に出場しました。駆けつけた応援団などにより大いに盛り上がりを見せた本選では、浦添市民は5組が出場し、自慢の歌声を披露しましたが、残念ながら合格の鐘は鳴りませんでした。

来場者は、オープニングでリズムカルに手拍子を送ったり、スタッフの指示に合わせて拍手をするなど、番組に参加しながら会場の雰囲気を楽しんでいました。



2/15 (火) 文部科学大臣優秀教員表彰受賞

優れた成果を挙げた教員を表彰するために文部科学省が毎年行っている「文部科学大臣優秀教員表彰」について、今年度は県内から13人の教諭が選ばれ、市内からは仲西中学校の神谷加代子教諭が受賞し、その報告が市役所でありました。神谷教諭はハンドボール部監督としてこれまで多くの県大会優勝を始め全国大会優勝も果たしており、過去に県中学校体育連盟や那覇地区中学校体育連盟から「優秀指導者賞」も受賞しています。報告を受けた西原教育長は「浦添市をハンドボール王国へと導いた1人であり、浦添の誇りです」と、述べました。



1/17 (月) 珠算で日本一!

昨年12月に埼玉県で行われた全国珠算競技大会で優秀な成績を収めた宮城珠算学校の生徒たちが結果報告のため、市長を訪問しました。

一般を含めた読上算、中学生の部での個人総合、読上暗算、団体で日本一を獲得した玉那覇有亮さん(昭和薬科大学付属中3年)は、「4冠は初めて。そろばんは競い合えるところがおもしろい」と、話していました。また、小学3・4年生の部の読上算で上原和子さん(浦城小4年)、高校生部の読上算、フラッシュ暗算で宮城裕次さん(那覇商業高3年)がそれぞれ日本一を獲得しました。

